

将来の仕事に備えた読解ストラテジーと演習
Reading Strategy and Practice for Future Work

内藤 永
北海学園大学

Hisashi Naito Hokkai-Gakuen University

Abstract

International Labour Organization (2013) shows that the current unemployment rate is statistically high among youth and points out there is mismatch between skills acquired through education and those required at work. This paper reports a reading class at the faculty of business administration of Hokkai-Gakuen University, which focuses on learning reading strategy for future work. Supposing that learners are at a workplace, where their supervisors ask them to collect newspaper topics in English, the class requires reading exercises of articles from the Japan Times business section, aimed at improving skimming and summarization skills. Web systems are efficiently used in this class to manage submitted assignments. Student evaluation shows students' satisfaction with the content of this class.

1. はじめに

国際労働機関の白書によると、現在、全世界の15-24歳の若者のうち12.6%、実に、7,300万人が就労できないでいる（ILO (2013)を参照）。図1に示すとおり、日本の若者の非就労率は10%以下に留まり、世界的に見れば、まだ恵まれている就労率と言える。しかし、国内で報道されるニュースによると、内定率が非常に悪いのが現状である。

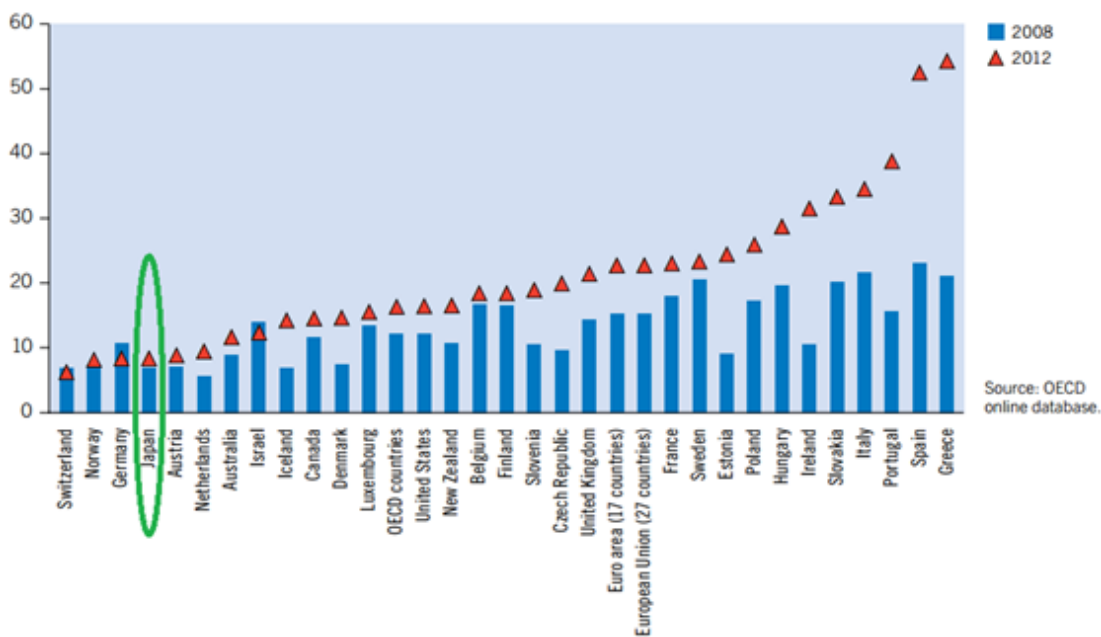


図1. 2008年と2012年の若者の非就労率 (ILO (2013: 11)より転載)

このように若者が就労できないという世界的な傾向は今後も続く予測されている。その原因の一つに、教育で習得するスキルと、社会で必要とされるスキルにミスマッチがあると ILO の白書は分析している。実際に、日本に限定した場合、経済産業省 (2010) の調査によると、大学生と企業との間では「不足している能力」に関してミスマッチが確認されている。図2では、全国の人事採用担当者に対して「学生に不足していると思う能力要素」、そして、日本人学生に対して「自分に不足していると思う能力要素」を尋ねている。

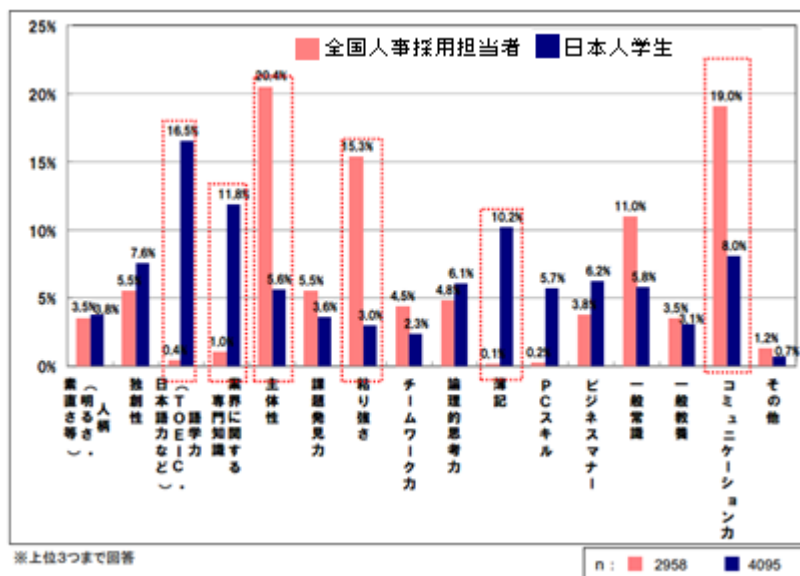


図2. 大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査結果

する調査（経済産業省（2010::7）より転載）

調査結果に関しては、「企業側は学生に対し、『主体性』『粘り強さ』『コミュニケーション力』といった内面的な基本能力の不足を感じている。それに対して学生は、技術・スキル系の能力要素が自らに不足していると考えている」と分析し、「企業側が『学生に求める能力要素』と学生が『企業から求められていると考えている能力要素』ならびにその水準には、大きなギャップが存在する」と結論付けている（町田（2013）は、このような大学生と企業のミスマッチは、北海道内にも起きていると、アンケート調査の結果からレポートしている）。

英語を必ずしも得意としない学生が多数いる学部において、年間のコマ数が少ない英語の授業を巧く活用することは非常に難しいことであるが、学生の将来を考慮するならば、少しでも将来に役立つスキルを習得させることが社会のニーズに適っているだろう。本稿では、将来の職業的ニーズを見据えてデザインされた、北海学園大学経営学部の総合実践英語を紹介し、その中から筆者が担当する、リーディング・ストラテジーB を特に取り上げて、英文情報を戦略的に読解し、情報をまとめる授業実践について詳述することとする。

2. 北海学園大学経営学部の総合実践英語

北海学園大学の経営学部では、2003年に学部がスタートして以来、今日まで、コミュニケーションツールとしての実践的な英語力を身につけることを目的として、「総合実践英語」が、以下の図3の通りに、第1学年から第4学年まで展開されている（北海学園大学の経営学部には、昼間の1部と夜間の2部があるが、両者では全く異なる英語履修要件となっているため、本稿では昼間の1部の英語についてのみ触れる）。

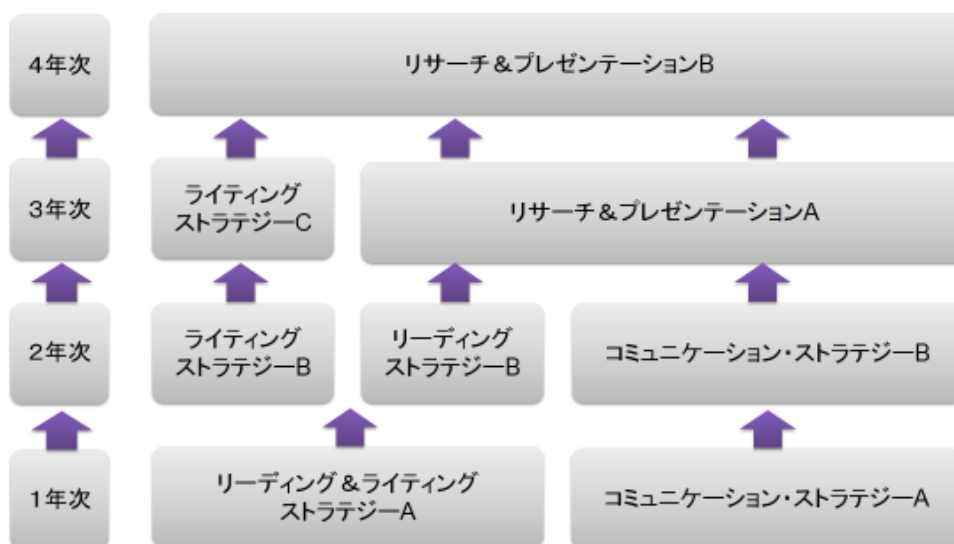


図3. 北海学園大学経営学部「総合実践英語」の全体像

第1学年では、リーディング&ライティング・ストラテジーA (RWS-A) が前期に、コミュニケーション・ストラテジーA (CS-A) が後期に展開される。いずれも卒業に必要な必修科目で、各2単位となる。経営学部は1学年300名定員であるが、4名の常勤講師が1クラス、6名の非常勤が2クラスを担当し、1クラス20名以下の比較的少人数で授業が行われている。

第2学年以降は、第1学年のRWS-AとCS-Aの単位取得済みであることを条件に、ライティング・ストラテジーB (WS-B)、リーディング・ストラテジーB (RS-B)、コミュニケーション・ストラテジーB (CS-B)、さらに、第3学年以降は、これらのストラテジーBを取得済みであることを条件に、ライティング・ストラテジーC (WS-C)、リサーチ&プレゼンテーションA (RP-A) を、履修することができる。第4学年では、最後の英語を履修する機会として、リサーチ&プレゼンテーションB (RP-B) が開講されている。いずれも、卒業要件となる単位の中にも含めることができる選択科目で、4単位となる。これらの選択科目はすべて常勤の4名がクラスを担当し、いずれの科目も、社会において使える英語力の養成を念頭に置き、主に将来の職業生活で求められる実践的な英語力の養成を目指している。

以上の科目に関して、開講学年、開講時期、取得単位、週当たりの授業回数、一クラスあたりの人数、履修要件をまとめると、表1の通りである。

表1. 北海学園大学経営学部「総合実践英語」の各科目の概要

| 科目名称 | 学年 | 開講 | 単位 | 授業回数 | 1クラス人数 | 履修要件 |
|-------|--------|----|-----|------|--------|------------|
| RWS-A | 第1学年 | 前期 | 2単位 | 週2回 | 20名 | なし |
| CS-A | 第1学年 | 後期 | 2単位 | 週2回 | 20名 | なし |
| WS-B | 第2～4学年 | 通年 | 4単位 | 週1回 | 15名以下 | RWS-AとCS-A |
| RS-B | 第2～4学年 | 通年 | 4単位 | 週1回 | 40-50名 | RWS-AとCS-A |
| CS-B | 第2～4学年 | 通年 | 4単位 | 週1回 | 15名以下 | RWS-AとCS-A |
| WS-C | 第3～4学年 | 通年 | 4単位 | 週1回 | 15名以下 | WS-B |
| RP-A | 第3～4学年 | 通年 | 4単位 | 週1回 | 15名以下 | CS-B |
| RP-B | 第4学年 | 通年 | 4単位 | 週1回 | 15名以下 | RWS-AとCS-A |

以下、本稿では、筆者が担当する科目の中で、特に、第2年次以降に展開されているリーディング・ストラテジーB (RS-B)に焦点を当てて、授業実践を報告する。

3. 北海学園大学経営学部総合実践英語・リーディング・ストラテジーB (RS-B)

ここでは、1) 履修者とその選抜方法、2) 授業の目標、3) 教室と教材、4) 授業の進め方と評価の方法を紹介した上で、5) 授業の実際について報告する。

3.1 履修者

第1学年の必修科目を終えた経営学部の学生たちは、第2年次以降に展開される総合実践英語の科目を履修することができる。RS-Bは、40-50名程度のクラスが2クラス分展開されているため、例年、履修希望者のほぼ全員が履修登録することができる。履修を希望する学生が多すぎる場合には、第1学年のRWS-AとCS-Aの成績の上位者、80-100名程度に限定することとしている。また、クラスは、この成績順に、上位クラスと下位クラスに分けられて履修をすることになる。上位クラスではより実践的な授業内容、下位クラスはより基礎的な授業内容となっている。ここで紹介するのは、筆者が担当する上位クラスの授業内容である。

3.2 授業目標

このRS-Bでは、最新のビジネス情報を新聞やインターネットから収集し、情報をまとめる力を養成すること、また、マネジメントに関わる英文書を読み、原書から読み取る力を育成することを狙いとして、以下の4つの授業目標を据えている。

- 目標1. 英字新聞をざっと眺めて、必要な情報をピックアップできるようになる。
- 目標2. 英文記事の細かな情報を正確に読み取れるようになる。
- 目標3. 英文記事の内容を簡単にまとめることができるようになる。
- 目標4. 英文の原書を精読し、深い意味を学ぶことができるようになる。

初回の授業時には、北海道の企業で英語による情報収集が行われている具体的な事例を紹介し、この授業が将来的な仕事に備えた訓練であることを伝え、学習の動機づけを図る。そして、「上司や社長から海外の情報を入手して来るように依頼された」ことを想定して演習を重ねるように指導している。

3.3 教室と教材

授業は、図4で示しているような、インターネットに接続されたコンピュータ室で行われる。主に Japan Times のビジネス関連ニュースを読解していくが、筆者が定期購読している紙面版を毎回配布する。部数が不足する場合には、インターネット上の Japan Times のサイトを閲覧してもらうことにしている。



図 4. RS-B の授業風景

紙面版の Japan Times 以外には、教科書やハンドアウトは一切使用しない。学生たちは、図 5 にあるような授業用ホームページに毎回アクセスし、その日の授業の流れ、また、要約用の記事、必要な電子ファイルを入手する。

| Naito-Lab.Net | |
|-------------------------|---|
| Home | 2013 Reading Strategies B |
| Hokkai-Gakuen Univ. | This course will offer students an opportunity to develop their reading skills. The students are required to read a lot of articles in the field of business. |
| F. of Business Admin. | Lesson 8 (June 6) |
| Sogo Jissen Eico | 本日の授業 |
| Longman Dictionary | 1. The Rules of Management: Rule 41 |
| Eijiro | ブログのコメント欄に、一言、投稿してください。 |
| Japan Times Business | 2. Checking of the Summary Homework |
| Post System | The Japan Times Summaryの課題文のコメント欄に内藤の要約例があります。その要約と自分の要約文を比較して、 反省 した内容を自分の要約のコメント欄に記しましょう。 |
| 1. Rules of Management | 3. The Japan Times Skimming |
| 2. Japan Times Skimming | 紙面から 好きな記事を1つ 選び、ヘッドライン(記事タイトル)を和訳して、その内容を1文でレポートしてください。 |
| 3. Japan Times Outline | 4. The Japan Times Outline |
| 4. Japan Times Summary | The Japan Times Summaryに行き、課題記事全体を読み、 教段落ごとにまとめ 、要約に盛り込む内容かどうかを決めてください。 |
| | レポート提出例 |
| | 1) 要約 |

図 5. RS-B の授業用ホームページ

授業中で追加する学生への指示内容に関しては、パソコンデスク中央にあるモニターに表示する。この授業はすべて電子化されており、学生はすべての演習をコンピュータ上で済ませ、提出物がある場合も電子メールやブログなどを使い、オンラインのみで行っている。

3.4 授業の進め方と評価方法

この授業では、3.2で掲げた4つの目標を達成するために、以下の4つのことを毎回演習していく。これは授業の流れそのものとなる。

演習1. 英文の原書（現在はThe Rules of Management by Richard Templar）を読み、気に入った文についてコメントを書く。

演習2. The Japan Times の紙面版、インターネット版を用いて、Skimming（ざっと読み）の練習をする。

演習3. ビジネス関連記事について、その構成や展開を学ぶことで、記事内の情報を誤読することなく読み取る練習をする。

演習4. 精読した記事について、その概要を「背景、ニュース、識者の見解、展望」という順番でまとめる。

授業の評価は、演習1と演習2がそれぞれ20ポイント、演習3と演習4がそれぞれ30ポイントで、合計100ポイントとして評価される。試験は一切行わず、提出されたものを積み重ねることで評価をしている。学則で、90点以上が秀、80点以上が優、70点以上が良、60点以上が可、60点未満が不可と定められているので、ポイントをそのまま点数に移行して評価をしている。

実力そのものではなく、所定の水準を満たす提出物のみで評価しているが、これまで2年半実施した授業展開の中で、苦情はなく、むしろ「努力が認められる」と概ね好評である。この授業で単位を取得できない学生は、授業に出席しない10%程度で、大多数の学生たちは、真剣に授業に取り組み、良以上の成績を修める。

3.5 授業の実際

3.5.1 演習1. 英文原書講読

授業の冒頭で行われる演習1では、課外学習として読解してきた経営学に関する英文、400語（A4サイズで1枚）程度を取り扱う。内容は、経営に関する鉄則を学ぶもので、鉄則が示されて後に解説をする、という流れの文章で、一回で読み切れる構成となっている。

学生は、原文の中から、目に留まった英文を1文抜き出し、それを記した上で、一言の感想を日本語で述べる。その感想は、図6で示すようなブログ上にすべて掲載するので、他の学生が寄せている感想をお互いに見ることができるようになっている。

2013 Rules of Management
Let's learn how to manage yourself.

<< [RULE 43: Set realistic targets for yourself-no. really realistic](#) | [TOP](#) | [RULE 45: Get rid of superfluous rules](#) >>

2013年06月20日

RULE 44: Have a game plan, but keep it secret

posted by rsb at 11:00 | [Comment\(35\)](#) | [Naito](#)

この記事へのコメント

Your game plan should incorporate both long- and short-term goals.

プランは、小分けにした小さなものと最終的に目指していきたい大きなものを合わせて練る必要があると分かった。人に言わずとも、明確なプランは皆心に強く持っていると思う。

Posted by [redacted] : 2013年06月27日 10:45

Play your cards close to your chest and keep up the appearance of dedication.

社内ではプライベートな目的は口に出す必要は無い。どのみち自分の考えが全て伝わることなんてないから。少なくとも自分のゴールは胸にしまって、他人に明かすことなく邁進すべきである。

図6. 英文原書講読の演習画面

この演習は、事前に原書を読んでもらうだけで、内容確認や日本語訳文の配布などは一切ないまま、感想を書くことになっている。筆者は、授業中に、学生たちの感想がアップされた順に確認して行き、誤読に基づく感想と思われる場合のみ、当該学生に対して個別に指導を行う。似たようなミスが多くの学生に目立つ場合にはその場でクラス全体に説明することになる。

授業の冒頭で行うこの演習1には、出欠を取る役割も果たしているが、演習の主眼は、英文原書を読んでいくためには相当の英語力を必要とすることを実感してもらうことにある。特に、この授業の中心となる英字新聞の読解に自信をつけた学生には、英文読解に関して、さらに成長の余地があることを実感してもらう機会となる。この演習は「難しい!!」という声を学生から多数聞くが、経営の実践を説く鉄則集であるため、学生にとって本の内容が面白いこと、課せられた課題自体は1文を抜き出すだけ、という手軽さがあるため、どうか毎回読んでくるようである。

3.5.2 演習2. Japan Times のスキミング

学生が取り組む第2番目の演習は、Japan Times 紙面版の全体をスキミングし、目に留ま

ったお気に入りの記事を見つけ、そのヘッドラインと和訳、記事の概要（日本語）をレポートさせるという内容である。学期の当初は、この演習が、北海道内の企業も行っている、情報収集に結びつくことを説明している。企業では、定期的に業界紙やネットから関連分野の情報を収集し、興味深い内容をまとめて情報共有している。その作業には、精読する力よりも、大量の英文に目を通し、必要な情報をピックアップする力、そして、それを簡潔にまとめる力が要求される。この授業では、Japan Times から興味深い記事をピックアップし、その内容を上司に一言で報告する、という場面設定をして、演習を進めている。

この演習では、授業当初は、学生の抵抗感を薄めるために、文字通り、好きな記事、興味を抱いた記事を読ませる。多くの学生は、短い英文を丁寧に和訳することには慣れていても、大量の英文に目を走らせることには慣れていない。8割が日本語の新聞を定期的に読んでいないのが実態であり、半分以上の学生が、英字新聞を初めて手にすることになる。中には、怖気づく学生もいるが、「慣れてくると、目に入ってくる文字量が自然と増えるから、新聞を持ち帰り、毎日、めくり、眺める練習をするように」と指導する。

実際の演習では、ほとんどの学生が新聞の写真を手がかりに記事を探すことからスタートさせる。特に指導しなくても、学生は写真についているキャプションの英文、ヘッドラインに続くリードだけを読み、この演習を完了させる。中には、丁寧に読解を始める学生もいるが、授業開始 20 分後には演習 3 へと進むため、中止せざるを得なくなる。そうすると、どの学生もリードだけに目を通すというストラテジーを自然に取ることになる。

学生が取り上げる話題は、スポーツ、芸能、そして、日本で広く報道されている内容がレポートの大半を占める。大量の英語に目を通すのが慣れて来る後期には、選ぶ記事をビジネス関連のみに指定する。さらに慣れて来た後期の後半には、国内ビジネスニュースを 1 点＋海外ビジネスニュースを 1 点と指定することで難易度を上げる。徐々に難易度を上げているために、演習 1 と演習 2 に費やす時間は、年間を通じて 20 分以内には完全に終えている。

提出するレポートは、図 7 の入力画面を通じて送られ、そのデータは CSV 形式のファイルでダウンロードすることができる。筆者は、授業時間内にざっと確認して、ヘッドラインの和訳が極端にずれている場合、また、ヘッドラインから推測される内容とずれている場合に限り、学生のところに足を運び、具体的に修正内容を伝達する。

The Japan Times: Skimming Practice

紙面全体から1つ記事を選び、以下を記入しなさい。

***必須**

学生番号 *

氏名 *

新聞全体から記事を1つ選び、そのヘッドライン(英文) *

上のヘッドラインの和訳 *

上の記事の内容を1文で *

送信

図7. Japan Times スキミング演習のレポート提出画面

3.5.3 演習3. Japan Times の記事読解

演習2を終えると、学生たちは、Japan Times: Business sectionの最新の記事について読解演習をする。この演習3の記事は、後期の後半までは、全員が同じ記事を読む、指定記事となっている。

授業開始後20分程度で演習1と演習2を終えると、記事読解と演習内容について、5分から10分程度の解説の時間を設ける。解説する内容は、次の1)～14)のように多岐に渡る。

- 1) 記事の構成
- 2) リードの役割
- 3) ヘッドラインとリードの関係
- 4) 辞書の使い方
- 5) ヘッドライン固有の文法
- 6) 記事の周辺情報の収集の仕方
- 7) Google 検索の使い方
- 8) ニュースの展開
- 9) 識者の見解が記事で果たしている役割
- 1 0) 今後の展望の読み取り方
- 1 1) 段落ごとのまとめ方
- 1 2) 数段落ごとのまとめ方
- 1 3) 背景、ニュース、識者の見解、展望、以上を色分けした読み方
- 1 4) 記事の選び方

学生たちは、その日に指定された課題に従い、記事を読み進める。学期当初は、記事の全体的内容を把握するところからスタートし、徐々に記事の細部に注目するようになり、前期の終わりには最終的には行間を読む訓練をしていく。

指定する記事は、だれもが知っている内容の短い記事からスタートする。そして、記事の長さを徐々に増やす、あまり知られていないニュースを指定するなど、難易度を徐々に上げていく。学生たちは、1) ~ 1 4) の課題を通じて習得した読解ストラテジーを駆使することで記事を読み進めていく。毎回、新たな課題が設定され、記事そのものの難易度が徐々に上げられるため、「できるようになったと思うと、また大きな壁が立ちだかるのがこの授業」と感想を漏らす学生が多く、なかなか楽ができない仕組みになっている。

90分の授業のうち、終了10分前までは、学生たちはこの演習3に集中する。高校までの授業とは異なった内容の課題が設定されているため、学生は試行錯誤を重ねながら、私語することもほとんどなく取り組んでいる。その間、筆者は学生の間を巡回し、様々な質問を受ける。時には、解説をもう一度やり直す、記事の細かな内容を説明する、Google 検索で関連するニュースを効率よく検索する方法を解説する、課題の進捗状況と進歩の度合いを指摘するなど、学生たちの個別の事情に合わせた声かけをする。授業評価アンケートでは、「時々、先生がやってきて、細かなことを教えてくれるのがよかった」という声があり、学生が集中して演習を重ねていくためには、声かけが重要であると感じている。

演習3課題に関しては、演習2とほぼ同様の画面に入力することで、課題提出を行う。授業の終了時間が来ると、途中でも課題を提出させる。課題が30%くらいしかできていない場合でも、学生が真剣に取り組んだ結果であれば、1回分の課題提出とみなす。この評価方法は、学生には非常に好評で、「苦手でも評価されるから嬉しい」、「努力が認められる」とのコ

メントが届く。CSV形式で回収できるデータを見て、学生が手抜きをしている、進歩が見られない場合は、個別に警告を与えるが、実際に減点対象になる学生はいない。むしろ、劣等感を抱く学生たちを激励し、どうにかこの授業についてくることで実力が向上していくことが大切であることを何度も説明するようにしている。

授業の最後には、演習3の課題の図8のような解答例をモニターに表示する。学生たちは、携帯端末で写真を撮るなどしながら、自分の課題との仕上がりの差をその場で確認する。レベルの高い学生たちにとっては、筆者が出す解答例に毎回いかに近づくかに興味を見出すため、相対評価に対する不公平感はいまだ一件も苦情はない。

各段落のまとめ

- ①円高、法人税が軽減されなければ、自動車メーカーは日本で製造することができなくなる、と豊田章男自動車工業会新会長が述べた。
- ②為替だけでなく、様々な障壁が取り除かれないと、日本の製造業は壊滅する、と5月17日に就任した自動車工業会会長が述べた。
- ③円高、高率法人税、自由貿易締結の遅滞、労働市場の規制、CO2の削減目標、電力不足が障壁となっている。
- ④ビジネスを行うのは非現実的。
- ⑤車の製造が100万台海外移転すると、何千人もが解雇されるので、国内に残っている。
- ⑥世界的には欧州の財政危機、米国の経済回復の遅れがあるが、それは楽観視。
- ⑦中長期的だけでなく、今年度に関しても、前向きな見通し。
- ⑧中国の市場は成長するなど、新興国の需要は拡大。
- ⑨自動車市場は成熟したというが、実際には、過去20年、4%ずつ成長している。
- ⑩電力不足対策として、昨年のように、休日操業はしない。
- ⑪従業員、提携先、顧客に迷惑だった。
- ⑫TPPへの参加、車の取得・重量税の軽減を求めていく。

緑：過去、黒：ニュース、赤：今後の展開

図8. 記事読解演習の解答例

先に記した解説項目1)～14)とそれに基づく演習が終了するのは、後期の前半を終えた頃である。後期の後半から終盤にかけては、「記事の指定」を外して、「Japan TimesのBusiness sectionから最新の記事」という指定で、学生は自由に記事について、数段落毎のまとめを作っていくことになる。ここからは、授業の終わりの「解答例」がない演習となる。筆者は、演習の最中に巡回し、どうしても理解できない文章の解釈、論調の捉え方などを指導する。

3.5.4 演習4. Japan Times の読解記事の要約

演習4は基本的には課外学習となる。演習3とその解答例を元に、学生は次回の授業前日までに、記事全体の要約を図9のようにブログにアップロードする。

Bourbon makers look to cash in on Japan's whiskey boom
バーボンメーカーは日本のウイスキーブームの利用に目をつけた

日本でのウイスキーブームを受けてバーボンの会社の競争が始まった。ハイボールの人気のウイスキー市場は成長し、アメリカからの輸入は2013年の最初の四半期で2012年の同時期の約2倍になっているが、バーボンの売り上げは2011年から2012年にかけて10%減少している。高品質のバーボンを作るのに長時間かかることも欠点である。結果的に輸出の制限があるので、すべての要望にちゃんとした供給ができない可能性があるとしている。

posted by rsb at 12:39 | [Comment\(1\)](#) | 1912115

2013年06月17日

Bourbon makers look to cash in on Japan's whiskey boom
バーボンの製造会社が日本のウイスキーブームに注目

日本ではバーボンの輸入量が減少している一方でハイボール市場が倍増し、ウイスキーブームが起こっている。そのような現状によって、アメリカの高級バーボンメーカーが日本への参入を試みている。有名人を起用したCM放映でブランド力を向上したり、トレンドの変更で消費者を引き付けようとしているが、醸造は4~7年かかるため量産が難しく、出荷量の制限によって日本への輸出は制限せざるをえない。

posted by rsb at 11:48 | [Comment\(1\)](#) | 1912245

2013年06月13日

Bourbon makers look to cash in on Japan's whiskey boom
次の記事を読んで、その内容を要約しなさい。

<http://www.naito-lab.net/hqu/2013/RSB/Bourbon.html>

要約の長さは問いません。ただし、要約は、【背景 ⇒ ニュース ⇒ 識者の見解 ⇒ 展望】の順番で展開すること。

締め切り:次回の授業の前日

posted by rsb at 10:40 | [Comment\(1\)](#) | [Naito](#)

図9. 要約課題のブログ画面

自分で記事を読み、ニュースの内容について解説を受けた後でも、実は、この要約は簡単にはいかない。中途半端な理解のままですと、要約が全くできない。結局は、学生たちは記

事をもう一度読み、細かな点を読解し直すことになる。要約は、英語ではなく、必ず、日本語でさせている。これは、英語をコピー・ペーストするだけの作業にすることを避けるため、また、十分に理解していないことを気づかせるためである。

授業開始当初は、要約の形式や文字数は自由にさせる。半分くらいの学生は、記事の和訳の箇条書きからスタートする。内容を理解している、というより、英語を日本語にしているだけであることが如実に分かる提出物となる。徐々に、箇条書きの禁止、短すぎるもの、長すぎるものの禁止と制約をかけていく。学生たちは「どのくらいの長さが適当か?」、「形式は?」と質問してくるが、回答は「この記事を読んだことがない上司が、その内容を簡単に理解できるような書き方」としか示さない。そして、学生が自分自身で工夫を重ねて、上司に分かりやすい文章として提出するように指導する。

演習4要約例は、翌週の授業の冒頭に公表する。実は、英文原書を講読する演習1と、Japan Times のスキミングをする演習2の間には、自分の要約文について反省の時間を設けている。学生は要約例と自分と要約との違いを比較検討する。そして、反省した内容を自分の要約が掲載されたブログ記事のコメント欄に記録させている。筆者は、この記録を見て、個々の学生が、何を理解し、何を理解していないかを見分け、授業巡回中の指導に役立てている。

この要約演習は、記事の背景、ニュース、識者の見解、展望の各ポイントの読み取りが出来てきた頃に、「背景 → ニュース → 識者の見解 → 展望」(過去から未来への時系列)という順番に並べるように細かく指導していく。上司との情報共有のために、まずは「背景知識」を確認し、その上で、新しい話題(ニュース)を持ち出す重要性を説く。そして、「ニュース」では、どのような数字や固有名詞を選択すべきか、選び方についても解説する。ニュースの数字をそのまま出すのではなく、上司にとって必要な数字、頭にすっと入る数字の出し方、などを指導する。そして、次に、ニュースをどう解釈すべきかを解説する。「識者の見解」が述べられたところでは、ニュースをポジティブに捉えるのか、ネガティブに捉えるのか、評価が定まらないものとして受け止めるのか、グループ分けさせる。最後には、識者の見解をグループごとにまとめた時に情報量が多いもの、記事の終盤に書かれたエピソードや繰り返しの内容が、「展望」を形成していくことを解説していく。

「背景 → ニュース → 識者の見解 → 展望」(過去から未来への時系列)の順に並べることを、理屈として分かっていても、この順番で要約を書いていくのは高度な技術を要する。結局は、一人一人に具体的に指摘を重ねていくしか方法はないようである。どうしても、自力でできない学生については、以下の図10から図12に示されたような流れで、修正案を具体的に出すこともある。

東京とモスクワは両者共にエネルギーや農業、建設の分野を通じた発展への協力の向上に賛成であり、日本はロシアとジョイントベンチャー（合弁事業）を行っていく方針だ。1996年から現在にわたって会議が行われており、次回は前回（昨年2月）同様モスクワで2013年の開催を予定している。会議の中で、日本の玄葉外務大臣は戦後から続く領土問題（きちんとした平和条約の締結）の重要性を指摘した。また、ロシア側は日本企業がロシアでビジネスする際の多くの問題を指摘し、環境整備を課題とした。10周年を迎え、行われた飯倉別館での会談では、玄葉外務大臣は関係構築を適切かつ戦略的にも重要とし、ロシアのシュワロフ第一副首相は投資問題解決のためのワーキンググループを重要視、プーチン大統領もトラストに経済の再構築を期待しているとのことだった。両者、関係の構築に対し前向きな姿勢である。また、ロシアの都市問題への取組と、日本へのエネルギー供給の方針について話し合われた。

図 10. 時系列の並び替え：修正前

東京とモスクワは両者共にエネルギーや農業、建設の分野を通じた発展への協力の向上に賛成であり、日本はロシアとジョイントベンチャー（合弁事業）を行っていく方針だ。1996年から現在にわたって会議が行われており、次回は前回（昨年2月）同様モスクワで2013年の開催を予定している。会議の中で、日本の玄葉外務大臣は戦後から続く領土問題（きちんとした平和条約の締結）の重要性を指摘した。また、ロシア側は日本企業がロシアでビジネスする際の多くの問題を指摘し、環境整備を課題とした。10周年を迎え、行われた飯倉別館での会談では、玄葉外務大臣は関係構築を適切かつ戦略的にも重要とし、ロシアのシュワロフ第一副首相は投資問題解決のためのワーキンググループを重要視、プーチン大統領もトラストに経済の再構築を期待しているとのことだった。両者、関係の構築に対し前向きな姿勢である。また、ロシアの都市問題への取組と、日本へのエネルギー供給の方針について話し合われた。

図 11. 時系列の並び替え：削除案（消し線部分）

1996 年から現在にわたって東京とモスクワの間では会議が行われており、10 周年を迎えた。会議の中で、日本の玄葉外務大臣は戦後から続く領土問題（きちんとした平和条約の締結）の重要性を指摘した。また、ロシア側は日本企業がロシアでビジネスする際の多くの問題を指摘し、環境整備を課題とした。また、ロシアの都市問題への取組と、日本へのエネルギー供給の方針について話し合われた。両者共にエネルギーや農業、建設の分野を通じた発展への協力の向上に賛成であり、日本はロシアとジョイントベンチャー（合弁事業）を行っていく方針だ。今回は前回（昨年 2 月）同様モスクワで 2013 年の開催を予定している。

図 12. 時系列の並び替え：修正案（赤字以外は修正前の文）

上記の修正案は、「削除」（図 11）と多少の「並べ替え」（図 12）を行っただけで、追加した文字は赤字で記した 5 文字だけである。このような修正案を見ることで、学生は、自分が理解していることと、その内容を相手に正確に伝えるために要約することは、大きな隔たりがあることを理解する。

何を削除すべきかについては、学生にとって大きな問題であり、習得が難しいようである。もちろん、上司が何を情報として求めているかが異なれば、当然、正解も異なってくる。ただし、要約から冗長な部分を一切排除することは、必須の作業である。また、時系列に並べることが、読み手にとってどれほど理解しやすいかは、多くの学生が「目から鱗」と評価している。要約例を出し続けることで、また訓練を重ねることで、後期の後半に入ると、どうにか形になってくる。

後期の後半から終盤にかけては、学生たちは自分で選んだ記事の要約をすることになる。この段階に到達すると、学生が選ぶ記事はばらばらであるため、個々の課題内容を詳しく見ることが非常に難しくなる。そこで、筆者は「上司の視線」で課題を確認していく。筆者が読んでいない記事について、学生が作成した要約文だけを見ることで、その内容が果たして分かるかどうかの視点で課題を確認していく。分かりづらいところについては、巡回する中で、個々に指摘していくことになる。学生の理解が不十分なときには、実際に自分で記事を読んだ上で指導にあたる。

この授業の最初の授業では、指定記事について、「記事を読んだことがない上司が分かるように要約するように」とだけ指示して、授業時間と課外時間を利用して要約文を完成させる。前期の授業の終わりには、同じ記事について、もう一度、同じ要領で、要約させる。学生たちは記事の内容をほとんど忘れていたが、自分が作成した要約の違いに驚く。より深く内容を理解し、より分かりやすい要約を書けるようになっていく。この進歩は、授業に参加した

学生全員が実感することになる。以下は、平均的な学生の提出物である。

近頃 fine dine 食品デリバリーサービスが急成長してきました。その会社にはたくさんの食品のメニューがあり、その中では様々な国の料理を配達することもでき、長蛇の列を作るようなレストランの料理まで配達することもできるので好評である。このようなサービスのおかげで料理を作る暇がない家庭（ここではある程度の富裕層であって多忙な家庭）からも喜ばれている。さらには店に行くのが面倒な人からもこのサービスを利用すれば平均して45分から60分で宅配されるので時間も省ける。このサービスは電話やインターネットを利用して注文でき、毎月3万のメニューブックが発行されている。料金のほうは商品の値段プラス商品の15パーセントの値段である。15パーセントは配達料金として宅配会社の利益である。そうしてこの事業はお店と fine dine が連携して行われ、このシステムのおかげでお店側とそのサービス会社はお互いに利益を確保することができたのである。のちに東京以外の大都市にも展開するであろう。我々はこのデリバリーサービス業界の会社から学べるであろう。

図 13. 初回授業時点での要約

去年から東京で始まったファインダインのデリバリーサービスは人気が出てきている。これは豊富な種類の食品や待つ必要がある人気レストランの品を頼めるからである。さらに注文してから約1時間で家に届き料金は食品の料金と配達料として食品の15%の料金をプラスしたものである。これは忙しい富裕層にとっても人気なサービスである。さらにファインダインはレストランエクスプレス社と提携し2倍の収益を見込める予定。レストランにとってファインダインによる宅配代行は宅配事業コストを省ける。これからファインダインは東京以外の主要都市へと進出する予定だ。

図 14. 前期終了時点での要約

図 13 の初回授業の要約に比べて、図 14 の前期終了時点の要約は、冗長となっている部分が削除され、かなり簡潔になっている。今後の展望も明快に記されていて、記事を読んだことのない人であっても、このニュースがどのような方向に進むかがわかるように

なっている。

4. まとめ

本稿では、北海学園大学経営学部の第2学年以降を対象に開講されている授業の中で、リーディング・ストラテジーBの上位クラスの授業内容を紹介した。授業は「数ある英文情報の中で、上司にアウトラインを報告し、その中から、とりわけ重要な情報については、分かりやすい要約文を作成して報告する」ことを想定して構成している。よりリアルな社会の場面を想定することで、学生の学習態度も自ずと真剣になる。大学全体の取り組みの中で行われる授業改善アンケートの結果を見る限り、9割以上が授業に満足している。この結果から、授業の狙いや進め方については概ね基本要件を満たしていると思われる。

学生のニーズや、教員として不足を感じていることをさらに列記すると、ビジネス単語の語彙習得をどのようにするか、読解の細かな部分の指導をどのようにするか、英文要約にはチャレンジすべきか、携帯端末の普及でパソコンのリテラシーが低下する現状で、どこまでパソコンを利用した授業を展開し続けるか、学生からリクエストが多い「英文情報検索の方法」、「自由にテーマを選ぶことができるリサーチ課題」などにどのように取り込むべきか、などまだまだ授業改善の余地は大いにあるのが現状である。

参考文献

- International Labour Organization (2013) *GLOBAL EMPLOYMENT TRENDS FOR YOUTH 2013: A generation at risk*, International Labour Office.
- 経済産業省 (2010). 『大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査』.
- 柴田晶子 (2011). 『ビジネスパーソンが抱く英語の基礎力像 —アンケート調査の単純集計から—』 pp1-13. ESP Hokkaido Journal Volume 1.
- 町田佳代子 (2013) 『北海道の企業が採用時に重視するコミュニケーション能力に関する実証的研究』 pp14-19. 人材育成と社会的企業. 北海道開発協会.
- 内藤永、吉田翠、飯田深雪、三浦寛子、坂部俊行、柴田晶子、竹村雅史、山田恵 (2007). 『北海道の産業界における英語のニーズ』平成17年度~平成18年度 財団法人北海道開発協会助成研究 ESP 北海道.